

広報 にいかっぷ

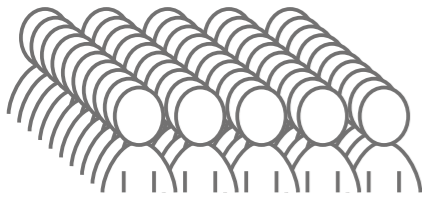
2018

4

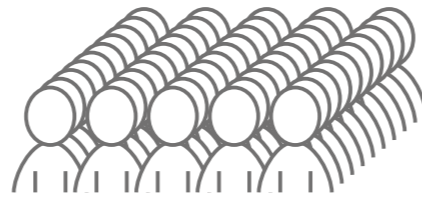
No 621

卒業式～感謝と希望を胸に

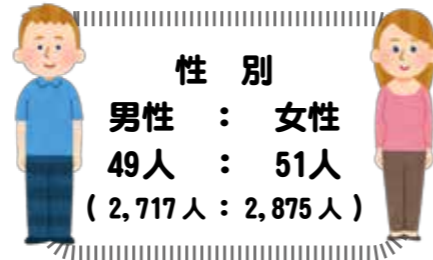
3月20日、新冠小学校で第130回卒業証書授与式が挙行されました。31名の卒業生は、学校の先生や保護者に見守られ、6年間の思い出がたくさん詰まった学び舎を巣立ちました。



もし新冠町が 人口100人の町 だとすると...



平成 27 年国勢調査の新冠町の人口 5,592 人を人口 100 人の町に置き換えてみると、このような結果になりました。「世界がもし 100 人の村だったら」という有名な本がありますが、このように置き換えをしてみると少し実感が湧いてくるのではないのでしょうか。今回紹介している国勢調査結果は、全てインターネットの「総務省統計局国勢調査結果」から引用したデータです。統計局のページには、さらに詳しい情報が掲載されていますので、興味のある方は「国勢調査結果」で検索してみてください。



国籍
日本人 : 外国人
99人 : 1人
(5,531人 : 61人)



15歳以上の産業別人口
1次産業 : 2次産業 : 3次産業
36人 : 15人 : 49人
(1,070人 : 427人 : 1,437人)



年齢構成
0歳-19歳 : 20歳-39歳 : 40歳-59歳 : 60歳-79歳 : 80歳以上
16人 : 19人 : 26人 : 27人 : 12人
(915人 : 1,066人 : 1,451人 : 1,523人 : 637人)



居住地区
大狩部~里平 : 節婦町 : 市街地 : 西泊津 : 東泊津・高江~泉
12人 : 10人 : 49人 : 8人 : 21人
(672人 : 564人 : 2,751人 : 444人 : 1,161人)

平成 27 年国勢調査結果から見える町の現状

平成 27 年 10 月 1 日を基準日として国勢調査が実施されましたが、平成 29 年 12 月、約 2 年が経過して、ほぼすべての調査結果が出揃い、統計局のホームページから閲覧できるようになりました。

今月はこの調査結果から特徴的な数字を抜き出し、現在の新冠町の様子を分かりやすく解説します。また、人口学の専門家にもインタビューを行いましたので、その内容をご紹介します。

①日高管内各町の人口の推移 (H22年⇒H27年)

地区名	H22年調査	H27年調査	増減率
日高町	13,615人	12,378人	-9.1%
平取町	5,596人	5,315人	-5.0%
新冠町	5,775人	5,592人	-3.2%
新ひだか町	25,419人	23,231人	-8.6%
浦河町	14,389人	13,075人	-9.1%
様似町	5,114人	4,518人	-11.7%
えりも町	5,413人	4,906人	-9.4%
日高管内	75,321人	69,015人	-8.4%

早速、調査結果を見てみましょう！平成 27 年の新冠町の人口は 5,592 人。22 年調査からの減少数 183 人・減少率 3.2%となりました。日高管内では、減少率は一番少なく、移住定住の取り組みの成果が出たと言えますね。



②新冠町の人口推移 (S35年⇒H27年)

調査年	総数	増減率
昭和 35 年	11,166 人	
昭和 40 年	10,519 人	-5.8%
昭和 45 年	9,455 人	-10.1%
昭和 50 年	8,214 人	-13.1%
昭和 55 年	7,634 人	-7.1%
昭和 60 年	7,277 人	-4.7%
平成 2 年	6,947 人	-4.5%
平成 7 年	6,478 人	-6.8%
平成 12 年	6,204 人	-4.2%
平成 17 年	6,034 人	-2.7%
平成 22 年	5,775 人	-4.3%
平成 27 年	5,592 人	-3.2%

③産業別の 15 歳以上就業者数 (H22年⇒H27年)

調査年	1次産業	2次産業	3次産業	合計
H22年調査	1,181人	353人	1,340人	2,874人
H27年調査	1,070人	427人	1,437人	2,934人
差引	-111人	74人	97人	60人
増減率	-9.4%	21.0%	7.2%	2.1%



5 年間の仕事する人の移り変わりを見ると、平成 27 年は、働く人が 60 人増えています。人口は減少していますが、働く人は増えているという状況です。産業内訳をみると、2 次産業（主に加工業）は、74 人増加・増加率 21%と大きく伸びていますが、1 次産業（主に農業）は、111 人減少・減少率 9.4%と大幅に少なくなっています。

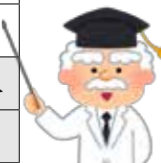


人口の推移を見てみると、昭和 35 年から少しずつ人口が減り続けていることがわかります。昭和 35 年と平成 27 年を比較すると、55 年で人口は約半分になってしまいました。

④年齢区分ごとの人口割合の変化 (H7年⇒H27年)

調査年	総数	0～19歳	20～39歳	40～59歳	60～79歳	80歳以上
平成 7 年 国勢調査	6,478 人	1,515 人	1,523 人	1,821 人	1,397 人	222 人
	構成割合	23%	24%	28%	22%	3%
平成 17 年 国勢調査	6,034 人	1,092 人	1,455 人	1,608 人	1,452 人	427 人
	構成割合	18%	24%	27%	24%	7%
平成 27 年 国勢調査	5,592 人	915 人	1,066 人	1,451 人	1,523 人	637 人
	構成割合	16%	19%	26%	27%	12%

各年代の構成比は、この 20 年で大きく変わっていることがわかりますね。平成 7 年調査では、0～79 歳までの世代の割合がほぼ同数、80 歳以上の人はわずかでしたが、平成 27 年調査では、0 歳～19 歳までの割合が大きくなり、80 歳以上の割合が増加しています。



札幌市立大学 原俊彦教授に聞く 新冠町の可能性

平成30年3月23日、新冠町の国勢調査の結果を携え、札幌市立大学の原教授の研究室を訪れました。原教授は、平成30年3月末まで札幌市立大学で教鞭を執られ、また、日本人口学会会長を務めるなど、長年にわたり日本の人口学をけん引されてきた方です。原教授が考える新冠の現状と今後のまちづくりについて、約2時間にわたりお話しを伺いましたので3つのテーマに分けて紹介します。

- 3つのテーマ
- ①国勢調査の資料を見て
 - ②町政懇談会の資料から
 - ③まちづくりのキーワード

①新冠町の国勢調査の結果から

平成22年〜27年にかけての新冠町の人口減少率は3.2%となりましたが、地区別増減率の地図（左ページ図1参照）を見ても分かる通り、ほとんどの地区で人口が減少しています。

その様な中、大きく人口が増加したのが共栄と西泊津の2地区ですね。お話しを聞くと、増加の要因は明らかで、共栄地区では老人ホームの増築により町外からの移住者が増え、また、西泊津地区では、宅地開発により町内外から移住者が集まったとのことですね。

ここで分かるのは、当たり前のことですが「住むところができる」と人が増える」ということであり、逆に、住むところが増えなければ、そこでは人の入れ替えしか起きず、人口は増加しないということです。

「これからの住宅対策」

では、今後もどんな「宅地開発」を進めればよいのかというと、それは違うと思います。何か新しい仕事場ができるなどきっかけがあれば良いですが、見通しもなく宅地開発をするべきではありません。

新冠は、苦小牧や札幌などの人口密集地からの通勤圏ではないことを考えると、今後は「住み替え」といった集落整備が重要になると思います。詳しく説明すると、市街地など従来からある住宅地は人口が減少していま

す。これは、昔は家族2〜3世代で生活していましたが子どもが独立し、現在は、親だけが住んでいるケースが多いからで、さらに時間が経過すると親の世代も高齢になりグループホームなどに住み替えをすることで今度は、空き家が増えてきます。

現在の子育て世代を中心に、空き家となった一戸建てに住み替えをしたいというニーズはあるのですが、思うように住み替えが進まないのが現状です。

その原因は、空き家になっても土地の関係で簡単に転売ができなかったり、今の子育て世代がバブル崩壊後の不況や就職難の影響により不安定な雇用環境で働いている人も多いことから、昔のように住宅を購入することができないという問題があるようです。

これからは、これらのミスマッチを解消し、集落整備を進めるダイナミックな仕組みづくりや補助制度が必要になると思います。

また、今は、ネットなどを使うことで地方でも仕事ができる時代なので、移住して子どもをのびのびと育てたい、豊かな自然の中で子育てしたいと考える親も多くなります。

新冠には、その様なニーズに応えられる素晴らしい環境があると思いますので、この強みを生かした取り組みもできると思います。

山間地区の農地指定された土地では、自由に住宅が建設できないという問題があるようです。自分も専門分野ではなく、詳しいことがわかりませんが、農地指定された場所でも従業員住宅の建設ができるようなので、移住を希望する人に牧場の従業員になってもらい、業務の一部に従事してもらうことで従業員住宅を建設する仕組みを制度化するなど、ニーズに即した対応ができると良いですね。

図1 新冠町地区別人口増減率

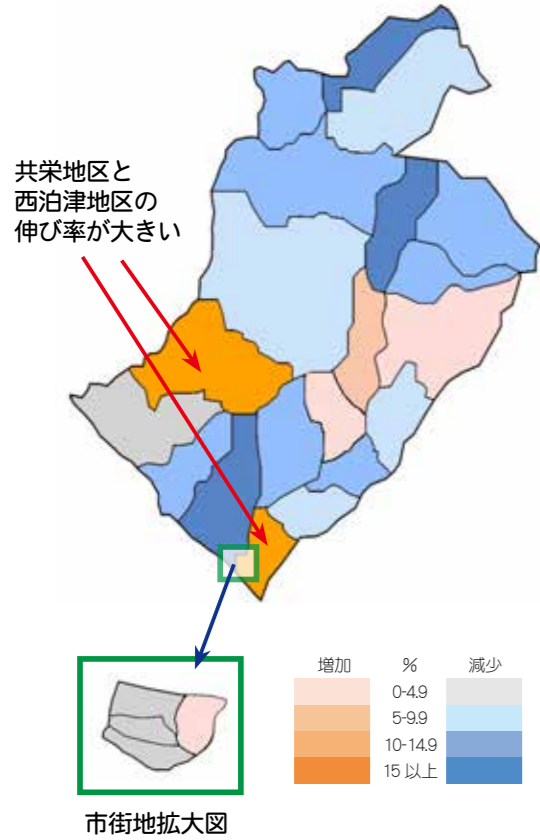


図2 コーホートチャート

国勢調査の5歳ごとの人口数を比較し、各世代の人口が5年間に何人・何%増減したかを一覧にしたもの。平成12年の赤囲みの流れが「第1の波」。また、平成27年の緑囲みが「第2の波」と期待する部分。

調査年	比較年	総人口	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80-84歳	85-89歳	90-94歳	95-99歳	100歳	←年齢階級
平成2年調査	S60	7,277	1段→	520	515	584	490	423	479	510	515	458	513	516	564	411	284	228	144	70	39	12	2	←前回人口
	H2	6,947	432	471	498	417	422	383	447	521	504	442	488	451	497	373	248	164	116	48	21	4	0	←調査年人口
	増減数	-330	-49	-17	-167	-68	-40	-32	11	-11	-16	-25	-65	-67	-38	-36	-64	-28	-22	-18	-8	-2	-2	←増減数
増減率	-4.5%	-9.4%	-3.3%	-28.6%	-13.9%	-9.5%	-6.7%	2.2%	-2.1%	-3.5%	-4.9%	-12.6%	-11.9%	-9.2%	-12.7%	-28.1%	-19.4%	-31.4%	-46.2%	-66.7%	-100.0%	-100.0%	←増減率	
平成7年調査	H2	6,974	1段→	432	471	498	417	422	383	447	521	504	442	488	451	497	373	248	164	116	48	21	4	←前回人口
	H7	6,478	324	339	408	409	395	317	402	477	475	424	445	411	442	342	202	117	72	25	7	1	←調査年人口	
	増減数	-496	-93	-63	-54	-8	-27	-66	-45	-44	-29	-18	-43	-40	-55	-31	-46	-47	-44	-23	-14	-3	-3	←増減数
増減率	-7.1%	-21.5%	-13.4%	-10.8%	-1.9%	-6.4%	-17.2%	-10.1%	-8.4%	-5.8%	-4.1%	-8.8%	-8.9%	-11.1%	-8.3%	-18.5%	-28.7%	-37.9%	-47.9%	-66.7%	-75.0%	-75.0%	←増減率	
平成12年調査	H7	6,478	1段→	324	339	408	444	409	395	317	402	477	475	424	445	411	442	342	202	117	72	25	7	←前回人口
	H12	6,204	247	300	349	363	389	442	350	305	360	478	467	398	400	375	397	296	156	82	42	7	1	←調査年人口
	増減数	-274	-24	10	-45	-55	33	-45	-12	-42	1	-8	-26	-45	-36	-45	-46	-46	-35	-30	-18	-6	-6	←増減数
増減率	-4.2%	-7.4%	2.9%	-11.0%	-12.4%	8.1%	-11.4%	-3.8%	-10.4%	0.2%	-1.7%	-6.1%	-10.1%	-8.8%	-10.2%	-13.5%	-22.8%	-29.9%	-41.7%	-72.0%	-85.7%	-85.7%	←増減率	
平成17年調査	H12	6,204	1段→	247	300	349	363	389	442	350	305	360	478	467	398	400	375	397	296	156	82	42	7	←前回人口
	H17	6,034	260	264	316	252	309	395	405	346	328	358	466	456	373	368	353	358	239	119	51	17	1	←調査年人口
	増減数	-170	17	16	-97	-54	6	-37	-4	23	-2	-12	-11	-25	-32	-22	-39	-57	-37	-31	-25	-6	-6	←増減数
増減率	-2.7%	6.9%	5.3%	-27.8%	-14.9%	1.5%	-8.4%	-1.1%	7.5%	-0.6%	-2.5%	-2.4%	-6.3%	-8.0%	-5.9%	-9.8%	-19.3%	-23.7%	-37.8%	-59.5%	-85.7%	-85.7%	←増減率	
平成22年調査	H17	6,034	1段→	260	264	316	252	309	395	405	346	328	358	466	456	373	368	353	358	239	119	51	17	←前回人口
	H22	5,775	227	279	249	225	186	298	377	408	350	333	371	453	457	354	335	312	299	183	57	20	2	←調査年人口
	増減数	-259	19	-15	-91	-66	-11	-18	3	4	5	13	-13	1	-19	-33	-41	-59	-56	-62	-31	-15	-15	←増減数
増減率	-4.3%	7.3%	-5.7%	-28.8%	-26.2%	-3.6%	-4.6%	0.7%	1.2%	1.5%	3.6%	-2.8%	0.2%	-5.1%	-9.0%	-11.6%	-16.5%	-23.4%	-52.1%	-60.8%	-88.2%	-88.2%	←増減率	
平成27年調査	H22	5,775	1段→	227	279	249	225	186	298	377	408	350	333	371	453	457	354	335	312	299	183	57	20	←前回人口
	H27	5,592	219	248	266	182	170	220	303	373	422	339	321	369	444	444	322	313	267	215	115	34	6	←調査年人口
	増減数	-183	21	-13	-67	-55	34	5	-4	14	-11	-12	-2	-9	-13	-32	-22	-45	-84	-68	-23	-14	-14	←増減数
増減率	-3.2%	9.3%	-4.7%	-26.9%	-24.4%	18.3%	1.7%	-1.1%	3.4%	-3.1%	-3.6%	-0.5%	-2.0%	-2.8%	-9.0%	-6.6%	-14.4%	-28.1%	-37.2%	-40.4%	-70.0%	-70.0%	←増減率	

「コーホート分析から」

次に、5年ごとの人口増減率を示すコーホートチャート（左ページ図2参照）をみると、15歳〜24歳の年齢層が大きく減少しています。この時期は進学・就職時期の為ある程度人口流出が起きてしまうのは避けられません。しかし、この後の世代で増加に転じておらず、卒業後に新冠に戻るのが難しいことを表していることから、この世代の対策が必要だと思えます。

また、年齢が上の層では、60歳前後から人口減少が始まります。この年代の人口減少の原因は、退職前後に町を離れて住み替えをする人が多くいることを意味しています。

札幌市や大都市地域では80歳前後まで人口が増加するので、新冠では20年早く高齢者の人口減少がスタートしていると言えます。

高齢者が少ないということは、大都市が抱える2025年問題（第1次ベビーブーム世代が一斉に75歳の後期高齢者を迎える社会問題）の影響も少ないと思いますが、人口減少を防ぐには高齢者のニーズを把握し対策を進める必要があると思えます。

「人口の波」

次に、図2チャートの特徴的な動きとして「人口の波」があります。「第1の波」は、平成12年調査の25歳〜29歳の世代で、33人増加、増加率8.1%となっている部分です。（図2の赤線囲み）

5年後の平成17年の調査では、37人減少し、減少率は8.4%となりますが、その後、平成22年調査で3人、平成27年調査で14人増加します。全世代で人口減少が起きる中、この様に人口増加の波を作ることとはとても重要でこれが増えることで人口の減少率が抑えられます。

しかしながら、この第1の波も楽観視できないのが、先ほど説明した60歳前後で始まる人口減少です。

この世代も15年後には60歳の退職年齢に近づき、町外に流出する可能性が高くなることから高齢者に住みよいまちづくりが必要となります。

そして、「第2の波」が、平成27年調査の25歳〜29歳の世代で、34人増加、増加率18.3%となっている部分です。（図2の緑線囲み）第1の波と同じように、この波を止めることなく維持していく取り組みが必要といえます。

② 町政懇談会の資料を見て

町政懇談会の町長の挨拶（平成29年11月実施）を見せていただきましたが、まず感じたのは、「国や北海道が進める施策方針と個々の自治体の施策の方針が一致するとは限らない」ということで、たこえ方針が対立したとしても、地方自治体は、住民の意思に基づき独自の施策方針を貫くべきであり、それが地方自治の役割であると思います。地域の持続可能性が危機に瀕している状況では、地域自治体はその存続をかけて可能なことは何でも取り組む必要があり、結果的に財政が破綻し、さらに状況を悪化させる危険性はありませんが、何もしなければ新しい住民を獲得する以前に、今いる地域の人々の生活さえ成り立たなくなり、さらに人口減少を加速させてしまいます。特にライフラインや教育に関わることは、最優先で実施していくべきだと思います。

「国保診療所とライフライン」

国保診療所の有床化については、その診療所で働く医者がいないのであればやめるべきですが、もし、医者がいるのなら思い切って進めることが良いと思います。その理由は、図2からも分かるように、新冠では引退年齢で町外に出る人が多く、高齢者には住みづらいままだと考えられるからです。生活を営む原点である医療や教育、買い物や水道といったライフラインを守ることはとても重要なことです。

「教育環境の充実と子育て世代の支援」

小学校の複式学級回避の方針が出されていましたが、何が何でも単式を維持する努力が必要です。教育環境が整わなければ子育て世代の定着が見込めませんが、教育環境を整えば町の魅力は高まります。そして、給食費の無料化や子どもの医療費無償化についても、今の子育て世代の家族形態や雇用状況を考えてと大事な施策だと考えます。また、人手不足が深刻化する中、今の産業形態を維持するには外国人労働者の確保が重要となりますが、その外国人にとつても、自分の家族や子どもが安心して暮らすための制度が整って

また、高齢者は災害が起きてもすぐに逃げ出せないで、町民の安全を守る防災対策も重要な施策です。新鮮食料品店について述べられていますが、実は、都市部でも同様の問題が起きており、以前はマンシヨンの1階にあった新鮮食料品店が、今はコンビニに変わり、今度はそのコンビニが必要減少や従業員不足のために閉店し始めている状況です。

買い物対策としては、公設民営スーパーや公共施設内の販売所の設置などの取り組みが始まり、宅配も増えていますが、価格が高かったり、業者の人手不足などの問題もあるようです。このため最近では、商品を取り合いバスで山間部まで運び、そこからは地域住民が自宅まで配送する事例も出てきました。

いることは、仕事を選ぶときの重要な選択肢となります。

ミスター介護保険と呼ばれた山崎史郎さんが、「人口減少と社会保障」という著書の中で、日本は他の先進国と比べ子育て世代に対する支援が遅れていると述べています。

現在、国は保育や教育の無償化や子どもの医療費無償化などの制度化を検討していますが、新冠でこれらの支援制度を先行実施できれば、先進事例としてまちの魅力が増すことになり、いずれ国の補助制度が整えばその分の財源を新たな補助制度に回すことができます。

このように、子どもや子育て世代のために継続した投資をしていくことは大事なことだと思います。

「後継者対策とネット環境の整備」

先ほど、15歳〜25歳の就学年齢で町を離れた若者が学校卒業後に地域に戻りやすい仕組みづくりが必要で

あるという話しをしましたが、その一つが後継者対策であります。

これからは、親の仕事そのまま継ぐのではなく、儲かる仕事や付加価値への転換が重要であり、それらに対する支援が必要だと思います。

また、若い世代において快適なインターネット環境は生活必需品であり、ライフラインの一つです。

国では、無線方式によるブロードバンド環境整備の取り組みも始めたことから、それも今後の選択肢の一つだと思えますし、産業振興などと絡めることも有効であると考えます。

「みんなで取り組むまちづくり」

町民会議については、行政が中心となつて地域の代表者を数名集めて会議をするより、地域住民や利害関係者などが一堂に会して、生活実態に即した形で会議をすると即効性と実現性のある話し合いができると言われています。

③ まちづくりのキーワード

その①「中国山地の事例」

地域活性化事例として、藻谷浩介さんとNHK広島取材班が書いた「里山資本主義」では、地方を活性化させるのは、地域にあるただのものの活用にあるとの視点で、広島県内の住宅用建材会社を紹介しています。この会社では、産業廃棄物として捨てていた「おが屑」を燃料とする発電機を導入し、電気料と木材産廃費用が不要となり、余分な電気を売電することで、1年で4億円の経費を節約できたそうです。

また、この地域では、空のオイル缶と間伐材を材料とした空き缶ストロブを暖房や調理に活用し、家庭の燃料費を抑えることで地域住民の生活にゆとりが出たなどの経済学の視点を交えた暮らしが紹介されています。都会では、いくら所得が高くてもそのほとんどを生活費として消費してしまうケースも多くあることから、最近では、所得が少なくても、畑で作物を育て物々交換をするなど、その土地や住民と関係を育みながら暮らす生活に魅力を感じ移住する若者が増えています。

また、この様な若者が持つ技術や感性と地方の農業が融合し、新しい産業の形が生まれる可能性もあります。

その③「外国人労働者の活用」

先ほども少しふれましたが、人口確保や雇用対策という点においては、外国人に対する対策が急務です。

海外からの農業実習生が町内で結婚したり、外国人が移住して子どもを産めば、2代・3代と続いていく可能性が生まれ、人口減少を抑えることにつながっていきます。まさに、今のヨーロッパがその流れです。

「そこまでしななければいけないの？」という疑問の声もあると思いますが、日本の人口が平成20年に減少に転じ、今後、人口減少問題が町の存続を左右する状況となっており、このままでは、町の機能を維持できなくなる危険性があり、外国人を円滑に受け入れる制度の確立が必要です。

その④「多様性のある社会」

子育て支援などの拡充が進むなかで「子どもを産まないのがダメ」「結婚しないのがダメ」という雰囲気が出てくることには注意が必要です。これまで述べてきたものは、結婚したい人のための結婚支援制度であり、子どもが欲しい人のための出産・子育て支援制度の必要性です。

その②「町が潤う仕組み」

今、ニセコ周辺地区は、海外投資によるリゾート開発が盛んで世界中から観光客が集まっています。

外から見ると、この地区はとても潤っているように見えますが、昨年、倶知安町民の所得税などを調査したところ、実際には地域住民の所得は上がってはいませんでした。

原因は、ホテルも飲食業もオーナーが町外者でお金が地元に残らないため、今後は、観光客が消費するお金を地元の農家やお店に流していく仕組みづくりが必要となります。

外から入ったお金を町の中に溜めるためにお金の流れを見直すというのは、家庭だけではなく町の単位でもとても重要なことです。

例えばある町では、予算不足のため町道の補修ができない状況がありました。そこで、町と住民が話し合いを行い、住民が自分達で補修工事を行う仕組みを作りました。

町外業者に発注するとお金が町外に出てしましますが、自治体が道路補修の材料を用意し、町民が補修作業を行い、業務に携わった人が作業賃を受け取ることで、町のお金が町民の所得となるサイクルができました。

最近では、同性愛者に証明書を出す自治体も増えるなど、多様化していく個人を社会全体で受け入れる雰囲気づくりが進められており、外国人や移住者の価値観なども含めて広く受け入れていく必要があります。

多様なものを受け入れるということは、今ある枠や線を外していくということ、これは、「まちづくり」も同じで、町民が行政の仕事をしたり、行政が地域に出て仕事をするなど、今後はどんどん仕事や地域の形が混ざり合っていくと思います。

そして、このことが社会の多様性につながり、これから地域が生き残っていくためのキーワードになるといえます。

…終わり

原先生には、大変お忙しい中、取材に協力していただきました。どうもありがとうございました。

記事の中に出てきた「人口減少と社会保障」「里山資本主義」の2冊は、図書ラザに蔵書がありますので、興味のある方は、一読ください。



原俊彦教授
早稲田大学第政経学部卒業
ドイツ・フライブルク大学留学
(社会学博士取得)
札幌市立大学デザイン学部教授
(平成30年3月退職)
札幌市立大学非常勤講師
(平成30年4月より)

議会 - 第1回定例会 -

3月7日に招集された第1回定例町議会は、町長・教育長の行政報告、新年度の執行方針や予算などが審議されました。
ここでは、町長と教育長の行政報告（抜粋）についてお知らせします。

町長行政報告

①大雪に伴う農業施設被害

平成30年2月5日から6日にかけて断続的に降り続いた大雪により日高中部地域では、そ菜園芸用のビニールハウスを中心に、農業用施設が倒壊するなどの被害が相次ぎ、当町におきましても農業者への甚大な被害がありましたので、新冠町農協が取りまとめた2月13日現在の被害状況などについて報告します。

被災された農家総数は25戸、ビニールハウスや簡易牛舎などの被災した農業用施設数は140棟、被害総額は3億2769万2千円です。

内訳は、「そ菜園芸」部門に被害が集中しており、被災した農家は19戸、倒壊したビニールハウスは133棟、被

害額は3億519万2千円で、被害総額の9割以上が「そ菜園芸」部門でした。そのほか、畜産部門では肉牛農家4戸でビニールハウス製の簡易牛舎や簡易牧草庫などが損壊し、被害額は1250万円、軽種馬では農家2戸で厩舎1棟、倉庫1棟の屋根がそれぞれ損壊し、被害額は1000万円という内訳です。

この災害への対応でございますが、被害の状況や支援対策に関する情報の共有などを目的として、2月15日に町、農協、農業委員会、普及センター、農業共済組合で構成する「新冠町大雪災害対策本部」を組織しました。

また、2月17日から28日までの12日間をかけて、農協職員や町職員を被災農家へ派遣し、これに新冠建設協会の会員やホクレン、農協中央会などの農協系統団体、肥料や運送などピーマンの生産・出荷に関連のある民間会社などのボランティアが加わり、延べ人数375人が倒壊したビニールハウスの除雪や廃材となったパイプ、ビニールなどの撤去作業に従事され、復旧に向けての準備が進められました。

また、被災農業者に対するハウス資材の購入費や設置費用など経済的な支援策につきましても、国や北海道への財政支援を求め、新ひだか町と協力し、国会議員や北海道知事、北海道議会議員に対する要望活動を行っております。

今のところ国や北海道からの具体的な支援策の情報無く、町としての対応につきましても国や北海道の対応を



ビニールハウス撤去作業の様子

確認してからお示ししたいと考えておりますが、いずれにしても、被災した農業者の経済的な負担や生産意欲を保ち、また、生産量の減少による道内・外の消費者への影響を出来るだけ抑えるよう、町としても可能な限りの支援は行って参りたいと考えておりますので、ご理解をいただきますようお願いいたします。

②JR日高線の復旧に向けた取組

去る2月7日、浦河町において日高管内7町長とJR北海道、西野副社長との意見交換が行われ、鉄路を活かした早期運行再開、デュアル・モード・ビークルの導入、護岸決壊箇所恒久的な復旧対策などの要請を行っております。

また、2月16日には、日高町村会による要望活動を、北海道知事及び北海道議会に対して行っております。

要望は「JR日高線の早期運行再開と地域公共交通に関する緊急要望」として、日高線 鶴川く様似間の早期運行

教育長行政報告

①平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

実技調査の結果についてでございますが、実技調査における8種目の総体を示す体力合計点については、小学5年生男女ともに、全国平均と「同等」であり、中学2年生男女については全国より「やや高い」結果でありました。

今後、さらに詳細な分析を加えた上で、学校とも対応策などについて協議を進めます。

②平成30年度新冠小中学校学級編制と認定こども園ド・レ・ミの園児数

新冠小学校の児童数については、全体で246名を見込んでおり、前年度237名から9名の増となる予定です。

次に、朝日小学校の児童数については、47名で、前年度53名から6名減となります。普通学級は4学級となり、本年度の5学級から更に1学級の減となります。

次に、新冠中学校については、生徒数は133名を見込み前年度140名から7名の減少となります。

認定こども園ド・レ・ミの園児数については、年度当初の総園児数は163名を見込んでおります。

③新冠中学校卒業生の進路希望状況

生徒51名中、進学が50名、進路相談継続者が1名であります。

進学の内訳は、静内高等学校37名、静内農業高等学校4名、私立高校3名、道内外公立高校へ6名の希望でございます。



開館20周年記念昭和音大スペシャルコンサート

④レ・コード館開館20周年記念事業の実施結果について

記念事業の第1弾といたしまして、昨年6月3日に「レ・コード館誕生記念イベント」と「南こうせつコンサート」を同日開催し、また、レコード収集事業が、目標の100万枚を達成したため、レ・コード館開設日の6月8日に記念のセレモニーを催しました。

7月22日には、「米村でんじろうサイエンスショー」そして、最後の記念事業として、去る2月24日に「昭和音楽大学ウインド・シンフォニー・スペシャルコンサート」を開催いたしました。

今後とも、「レ・コードと音楽による町づくり」のコンセプトの象徴施設として、また、町民の様々な文化活動拠点として、事業展開を図ってまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

しかし近年、年齢構成が高いことや、市町村に生じた所得水準や医療費水準の差により、保険税水準に大きな開きが生じてきており、特に小規模市町村では財政が不安定になりやすいといった構造的な問題を抱えています。

こうした現状を改善し、国保制度の安定的な運営に向け、平成27年5月に国民健康保険法の改正が行われ、平成30年4月から、都道府県が市町村とともに国保の運営を行い、安定的な財政運営や効率的な事業の確保などを中心的な役割を担うこととなりました。

都道府県は保険給付に係る費用を市町村へ交付することになり、保険税については将来的に平準化をめざし、市町村毎の標準保険税率を算定します。また、市町村事務の効率化・広域化などを推進します。

市町村は、都道府県へ事業費納付金を納めることとなり、事業費納付金に見合う、保険税率による賦課・徴収を行うこととなります。また資格管理、保険給付、保険事業等の事業についても、引き続き担うこととなります。

⑤国保診療所の新たな医師の就任と病床再開について

現在、常勤医師3名体制による医療サービスの提供を続けておりますが、本年3月31日付をもちまして上田所長が満75歳により定年退職されることとなります。

上田所長は、平成28年4月1日に国保診療所の所長として着任していただき、当地域における医療提供に2年間ご尽力を賜りましたことに対しまして

地域社会の安心・安全確保のため

町内郵便局と連携協定締結



3月1日、役場会議室で、町と町内を配達区域とする5つの郵便局が包括連携協定を締結しました。

この協定は、高齢者や障がい者、子どもの見守り、道路の損傷、不法投棄などの情報提供など、子どもから高齢者まで誰もが安心して快適に暮らせるまちづくりの推進と町民サービスの向上を図ることを目的に締結されました。

基本を学んで筋力アップ トレーニング教室開催



3月3日、町民センターで、安全なトレーニング器具の使用法や効果的な筋力トレーニングメニューの組み方などを学ぶ講習会が開かれました。

講師は、パーソナルジムトレーナーの高津宏樹さんが務め、参加者は実際にトレーニング器具を使用しながら、年齢や体力に合わせた効果的なトレーニング方法について講師から説明を受けました。

新冠町観光振興推進協議会 馬産地観光シンポジウム



3月10日、レ・コード館シアターで新冠町観光振興推進協議会主催「新冠町馬産地観光シンポジウム」が開かれ、町内外から約50名の参加者が集まりました。

シンポジウムは2部形式で開かれ、第1部では、プロソフトクリーマーとして活躍する森川勇一郎さんが、ソフトクリームの観光ツールとしての可能性について講演し、第2部では、同協議会の今年度の活動報告が行われたほか、町内で「馬」に関わる仕事をされる3名のパネリストが参加してトークセッションが開かれ、馬産地観光の可能性について約1時間間にわたり意見交換が行われました。

浦河地方法法人会新冠支部 新冠中学校吹奏楽部へ楽器を寄贈



3月7日、公益社団法人浦河地方法法人会新冠支部の地域還元活動の一環として、新冠中学校吹奏楽部にシンバル1組が寄贈されました。

同法人会の寄贈は今年で3回目、廣島会長は「部員の皆さんの日々の頑張りに敬意を表し楽器を寄贈します。これからも頑張ってください」と挨拶し、武田部長に楽器を手渡しました。

子育てサークルぴぐれつと みんなでクレープを作ろう！



3月8日、認定こども園で子育てサークルぴぐれつととの平成29年度最後の活動として、親子でクレープを作るミニパーティーが開かれました。

この日の活動には14組の親子が集まり、子どもたちは、焼き上がったクレープ生地の上に、イチゴやミカンの果物と生クリームをトッピングして、オリジナルスイーツ作りを楽しみました。

ま ち の 話 題

あ れ こ れ

北海道森林組合連合会 木のおもちやを寄贈



北海道森林組合連合会と農林中央金庫札幌支店は、環境保全と持続可能な森づくりの進展など地域における森林環境教育活動の一環として、認定こども園ド・レ・ミに北海道産の木材を使用した木のおもちやを贈呈しました。

3月26日、認定こども園に関係者が集まり贈呈式が行われると、子どもたちは、早速、積み木や木馬、木の人形やカップけん玉などたくさん木のおもちやを取り出して、楽しそうに遊んでいました。

認知症について学ぼう

平成29年度認知症勉強会終わる



3月16日、泉生活館で平成29年度最後となる「認知症勉強会・認知症サポーター養成講座」が開かれました。

「認知症」を正しく学んでもらおうと開かれたこの勉強会は町内9カ所の生活館等で開かれ、延べ63人が参加しました。

この事業は、今年度も継続して開催する予定ですので、参加を希望される方は、保健福祉課に問い合わせください。

新冠町レ・コード杯卓球大会 192名の選手が熱戦を繰り広げる



3月18日、スポーツセンターで、第18回新冠町レ・コード杯卓球大会が開かれ、町内外から参加した192名の選手が熱戦を繰り広げました。

午前9時に会場に設置された16台の卓球台で一斉に試合が始まり、最初は29チームが参加する団体戦が行われ、続いて全選手が参加する個人戦が開かれ、約7時間にわたり白熱した試合が行われました。

町商工会女性部からの贈り物

交通安全祈願「愛の鈴」



3月22日、新冠町商工会女性部役員が役場を訪れ、教育長に「愛の鈴」を手渡しました。

女性部では、例年、小学1年生になる子どもたちに交通安全の願いを込めた手づくりのお守りをプレゼントしており、この日は、役員3名が完成したばかりのお守り50個を氷川神社に持参し、お祓いを受けた後に教育委員会に届けていただきました。

練習の成果を存分に披露 楽器体験講座成果発表会



3月29日、レ・コード館町民ホールで楽器体験講座成果発表会が開かれました。

演奏を披露したのは、昨年夏から社会教育課事業の楽器体験講座に参加しているメンバーで、発表会では、講師のブルーホースのメンバーと共にステージに上がり、「イエスタデイ」と「オンリー・ユー」の2曲を堂々と演奏し、会場から大きな拍手を受けました。

健康相談窓口のお知らせ

＜役場保健福祉課 健康相談＞

役場保健福祉課には、健康に関する専門職である保健師・管理栄養士・歯科衛生士がいます。

妊娠期～乳幼児期～成人期～高齢期まで、あらゆる年代の健康づくりをサポートさせていただきます。

役場開庁時間中（8時30分～17時15分）は、いつでも相談をお受けしておりますので、お気軽にご相談ください。

●相談例：妊娠・出産・子どもの成長の悩み、予防接種、歯の生え方
歯磨き、生活習慣病の方の食事、血圧、メタボ改善など。

●問い合わせ先 保健福祉課保健福祉グループ健康推進係

☎ 0146・47・2113

＜静内保健所 こころの健康相談＞

●内容：医師がこころの健康問題についてのご相談に応じます。

●相談例：うつ状態、ストレスによる不眠、認知症、ひきこもり、拒食、薬物依存、ギャンブルなど

●相談日：4月13日、5月11日、6月1日（7月以降も月1回開催）

●その他：相談時間13時30分～15時30分／相談料無料

＜静内保健所 女性の健康相談＞

●内容：女性特有の健康上の悩みについて、ご相談に応じます。

●相談例：妊娠・出産・子育てについて、思春期の性、望まない妊娠
性感染症について、更年期の健康問題など

●相談日：4月25日、5月23日、6月27日（7月以降も月1回開催）

●その他：相談時間13時～16時／相談料無料

●問い合わせ先 静内保健所健康推進課 ☎ 0146・42・0251

平成30年度室蘭児童相談所 巡回児童相談のご案内

巡回児童相談では、育児や成長・発達などの問題について、室蘭児童相談所の児童福祉司及び判定員が相談をお受けいたします。

●相談内容

療育手帳の申請・更新
成長・発達に関する相談

●対象

18歳未満のお子さんとその保護者

●日時

1回目 平成30年4月17日（火）
2回目 " 8月21日（火）
3回目 平成31年1月22日（火）

●場所

新冠町役場 3階 和室、会議室

●申込

相談に係る提出書類作成などの事前準備がありますので、相談を希望される方は1ヶ月前までに下記までご連絡ください。

●問い合わせ先

保健福祉課保健福祉グループ福祉係
☎ 0146・47・2113

役場からのお知らせ

— Niikappu Town Office Information —

その1

夜間窓口廃止と節婦移動窓口日程

町では、これまで税金や各種使用料の納入の利便性を図るため、月に2回夜間窓口を開設しておりましたが、近年は利用がほとんどないことから、平成30年3月末日をもって夜間窓口を廃止しました。

今後は、より一層の利便性の向上を図るため、コンビニ収納の範囲拡充などを検討してきますので、ご理解のほどよろしく願います。

なお、節婦移動窓口は、これまで通り開設いたしますので、日程を確認の上、ご利用ください。

●移動窓口開設日

4月16日(月)・25日(水)	7月17日(火)・25日(水)
5月15日(火)・25日(金)	8月15日(水)・27日(月)
6月15日(金)・25日(月)	9月18日(火)・25日(火)

●開設時間

午後1時30分から午後4時30分まで
※下旬の開設日は、午後6時30分まで開設します。

●開設場所

新冠消防第二分団庁舎（節婦分遣所）

●問い合わせ先

税務課税務グループ納税係 ☎ 0146・47・2115

町民生活課からのお知らせ

新冠町子ども誕生祝金について（新制度）

平成30年4月1日より、次世代を担う子どもの出産を祝うとともに、子育てに伴う家計の負担軽減と少子化対策などに寄与することを目的に、子どもを出産した家庭に祝い金を交付することが決定しました。

制度詳細は、4月13日発行の町政事務委託文書をご確認ください。

●交付対象者

出産の日において町内に住所を有し、出産した子どもを養育する父又は母のいずれかとする。

●祝金の額

子ども1人につき一律10万円

国民年金のお知らせ～会社を退職された方へ～

勤務先を退職されたとき、20歳以上60歳未満の方は厚生年金保険から国民年金への変更の届出が必要です。

また、退職された方に扶養されていた配偶者（20歳以上60歳未満）も同様に手続きが必要です。

●手続きに必要なもの

①年金手帳、②印鑑、③退職日が確認できるもの

●問い合わせ先

町民生活課町民生活グループ社会係 ☎ 0146・47・2112

健康カレンダー

（お問い合わせ先：保健福祉課 ☎ 0146・47・2113）

月	日	時間	事業名	場所
4月	13日(金)	13:00~16:30	フッ素塗布	保健センター
	16日(月)	13:30~15:30	えましあ茶ロン	えましあ
	24日(火)	受付10:00~	4・7・12ヶ月児健康診査	保健センター
受付13:00~		1歳6ヶ月・3歳児健康診査		
5月	11日(金)	10:00~11:30	脳の元気アップ教室 (認知症予防教室)	泊津生活館
		14:00~15:30		泉生活館
	14日(月)	10:00~11:30	脳の元気アップ教室 (認知症予防教室)	保健センター
		13:30~15:00		節婦生活館
	15日(火)	受付13:10~	BCG予防接種	保健センター
	16日(水)	13:00~16:30	フッ素塗布	保健センター
18日(金)	10:00~11:30	脳の元気アップ教室 (認知症予防教室)	緑丘生活センター	
	14:00~15:30		おうるの郷	
21日(月)	10:00~11:30	脳の元気アップ教室 (認知症予防教室)	朝日農村環境改善センター	
	13:30~15:00		太陽開拓婦人ホーム	
22日(火)	受付10:00~	4・7・12ヶ月児健康診査	保健センター	
	受付13:00~			1歳6ヶ月・3歳児健康診査

ご寄附ありがとうございました。

（敬称略）

●まちづくりに役立ててと

☆株式会社北海道日高牧場 (2,000,000円)

☆平田 繁 (コートハンガー1台)

●老人ホーム「恵寿荘」で役立ててと

☆高橋 喜夫 (プリン96個・ヤクルト100本)

☆木村千鶴子 (カット布1袋)

☆山口 キミ (古布7袋)

☆佐藤 順子 (古布2袋)

☆商工会女性部 (古布5袋)

☆ボランティアグループあゆみ (カット布3袋)

☆ボランティアグループちよぼら (カット布4袋)

新冠町社会福祉協議会へ

●香典返しに代えて

☆平田 繁 (100,000円)

●福祉事業に役立ててと

☆宅石 忠則 (古布3袋)

生涯学習講座「かた・ひじ健康講座」

肩や肘の痛みの原因は、スポーツだけによるものではありません。私たちの普段の仕事（農作業や軽種馬関係、デスクワークなど）や、加齢に伴うものなど多岐にわたり、日常生活にも多く潜んでいます。

今回の生涯学習講座では、肩と肘のスペシャリスト（専門医）から、痛みの原因や予防法を教わるほか、更に、エコーを使った無料診断や、無料リハビリ指導も行ないます。

ぜひともこの機会に、専門知識を学び、自分の身体の状態を知り、健康的な身体を育てていきませんか？

●日時 4月21日(土)14時～

●場所 レ・コード館シアター

●入場料 無料(要電話申し込み)

●申し込み・問い合わせ先

レ・コード館

☎ 0146・45・7833



図書ボランティアの募集

新冠小学校には、子どもたちが本に興味をもってもらうことを目的に活動する「図書ボランティア」があり、現在、ボランティアスタッフを募集しております。

毎回・毎週ではなくても、都合のつく日を交替で行っております。難しい仕事はないので、活動に興味がある方は、お気軽にご相談ください。

また、小学校にお子さんがいなくてもどなたでも大歓迎ですので、一緒に活動を楽しみましょう！

＜主な活動内容＞

●読み聞かせ

低学年に向けて朝の読み聞かせをしています。

毎週月曜日・木曜日 午前8時10分～20分

●図書室運営

本の整理やカウンターで本の貸し出しをします。

毎週火曜日・木曜日 午前10時5分～25分

●問い合わせ先：新冠小学校佐藤（図書担当）☎ 0146・47・2103

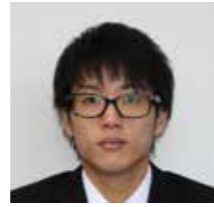
平成 30 年度新規採用職員



国保診療所医長兼
新冠町地域包括医療
・ケア推進室次長
西森 博幸



教育委員会
管理課管理グループ
校務係長
山口 覚



社会教育課
社会教育グループ
社会教育係主事
石井 壘



社会教育課
社会教育グループ
図書係主任司書
古内 絵実



管理課子ども園
グループ園務係
保育教諭
柏木 志織



町有牧野
牧野係
主任
出井 誠二



町有牧野
牧野係
主事
郡山 健志



国保診療所
外来診所
看護師
佐々木 麗奈



国保診療所
外来診所
准看護師
管 真弓

●問い合わせ先 総務課総務グループ総務係 ☎ 0146・47・2497

教職員着任式 新しい先生が着任しましたのでご紹介します。



- (前列左から) ①木下 北斗(朝日小学校教諭)
②善田しずか(新冠小学校教諭)
③前田 周一(朝日小学校校長)
④坂本 直司(新冠小学校校長)
⑤渡部千恵子(新冠小学校教諭)
⑥櫻井 一良(朝日小学校教諭)
⑦千葉 敦(新冠中学校教諭)

- (後列左から) ①幸田 泰嗣(新冠小学校事務職員)
②武田悠士郎(新冠中学校教諭)
③佐藤 公亮(新冠中学校教諭)
④南部 晃宏(新冠中学校教諭)
⑤木村 幹(新冠中学校教諭)
⑥田淵いづみ(新冠小学校栄養教諭)
⑦山口由紀子(新冠小学校教諭)

●問い合わせ先 管理課管理グループ総務係 ☎ 0146・47・2547

役場からのお知らせ

— Niikappu Town Office Information — **その2**

職員の動き 4月1日付けで、機構改革と職員の人事異動がありましたのでお知らせします。

町長部局

課名	発令内容	氏名	前職
出納室	会計管理者兼出納室長	田村 一晃	農業委員会事務局長
総務課	総務グループ総括主幹兼防災係長兼 選挙管理委員会書記次長 総務グループ財政係主任	佐々木 京	企画課まちづくりグループ総括主幹兼企画係長
		酒井 伸輔	町民生活課町民生活グループ社会係主任兼環境 衛生係主任
保健福祉課	保健福祉グループ総括主幹兼新冠町 在宅介護支援センター次長 保健福祉グループ介護予防係長 保健福祉グループ介護予防係保健師	新宮 信幸	総務課総務グループ総括主幹兼防災係長兼選挙 管理委員会書記次長
		柳澤 沙織	保健福祉課保健福祉グループ健康推進係長
		仙波 明子	保健福祉課保健福祉グループ介護支援係保健師
企画課	まちづくりグループ総括主幹 まちづくりグループ副主幹兼商工労働観光係長 まちづくりグループ副主幹兼企画係長 まちづくりグループ広報統計係長	楢川 聡明	保健福祉課保健福祉グループ総括主幹兼在宅介護支援 センター次長
		鈴木 智久	総務課総務グループ係長
		下川 広司 木村 晃三	産業課産業グループ副主幹兼畜産係長 教育委員会管理課管理グループ総務係長兼学校教育係長
産業課	産業グループ主幹兼畜産係長	西川 宏幸	産業課産業グループ主幹
税務課	税務グループ納税係主任主事	高岸 平	社会教育課生涯学習グループ社会教育係主事
建設水道課	管理グループ総括主幹兼用地係長 管理グループ管財係長	磯野 貴弘	社会教育課生涯学習グループ副主幹兼体育青少年係長
		斉藤 寿宣	企画課まちづくりグループ商工労働観光係長
町民生活課	町民生活グループ社会係主任兼環境衛生係主任	榑 拓己	産業課産業グループ畜産係主任

教育委員会部局

課名	発令内容	氏名	前職
管理課	管理グループ総務係長兼学校教育係長 子ども園グループ園務係長 子ども園グループ子育て支援係長	吉田 綱平	企画課まちづくりグループ広報統計係長
		田中 一江	教育委員会管理課子ども園グループ子育て支援係主任
		土井 牧子	教育委員会管理課子ども園グループ園務係主任
社会教育課	体育青少年グループ総括主幹兼体育青少年係長	伊藤 美幸	後期高齢者医療広域連合派遣

農業委員会

発令内容	氏名	前職
農業委員会事務局長	本間 浩之	建設水道課管理グループ総括主幹兼管財係長兼用地係長

町有牧野

発令内容	氏名	前職
所長	堤 秀文	会計管理者兼出納室長



夜間開館のお知らせ

毎週水曜日は、夜間開館日です。
夜8時まで開館しています。

今月の一冊



シロウト夫婦のきょうも畑日和

金田 妙著／農産漁村文化協会

園芸の知識ゼロの夫婦がきまぐれではじめた家庭菜園。オシャレな菜園に憧れて失敗したり、できた野菜を動物に食われたり…。

菜園家になって10年の著者が、はじめの頃の出来事を綴る。役立つ菜園の豆知識つき。

お知らせコーナー

静内駐屯地からのお知らせ

○一般幹部候補生(技術海上航空幹部)
資格 技術海上18歳〜22歳
航空幹部18歳〜20歳
・受付 5月25日まで
・採用試験日 6月25日
○その他
一般幹部候補生(一般・歯科・薬剤科・医科他)、一般曹候補生・自衛官候補生も募集しています。
●お問い合わせ先
陸上自衛隊静内駐屯地内
自衛隊札幌地方協力本部静内分駐所
☎0146・44・2855

春のヒグマに注意!

4月1日から5月31日は、春のヒグマ注意特別期間です。山菜取りなどで山に入る際は、ご注意ください。
・ヒグマの被害に合わないために
①事前にヒグマの出没情報を確認
②一人では野山に入らない
③食べ物やゴミは必ず持ち帰る
●お問い合わせ先
日高振興局保健環境部環境生活課
☎0146・22・9254

平成30年度調理師試験

次のとおり調理師試験を行います。
・受験資格
寄宿舎、学校、病院などの施設や飲食店営業、魚介類販売業などで2年以上調理の業務に従事した方。
・科目 食文化概論・公衆衛生学
・試験地 苫小牧市
・試験日 8月22日 13時30分〜
・願書受付 5月14日〜5月25日
・手数料 6900円
●お問い合わせ先
静内保健所企画総務課企画係
☎0146・42・0251

日高弁護士相談センター

センター開設日
4月16日(月)・18日(水)
23日(月)・25日(水)
5月12日(水)・7日(月)
9日(水)・14日(月)
※相談は予約制となっております。
●ご予約・お問い合わせ先
ひだか弁護士相談センター
☎0146・42・8373

アニマル号(移動図書館車)運行日程

4月19日	10:30~11:00	おうらの郷
26日	10:10~10:30	朝日小学校
	11:15~11:30	太陽郵便局
27日	15:40~15:55	町民センター前(児童館)
	16:00~16:30	認定こども園ド・レ・ミ
5月10日	10:10~10:30	朝日小学校
11日	12:50~13:20	認定こども園ド・レ・ミ
	15:05~15:35	新冠小学校
	15:40~15:55	町民センター前(児童館)
17日	10:30~11:00	おうらの郷
24日	10:10~10:30	朝日小学校
	11:15~11:30	太陽郵便局
25日	15:05~15:35	新冠小学校
	15:40~15:55	町民センター前(児童館)
	16:00~16:30	認定こども園ド・レ・ミ

新着ガイド

北海道の歴史がわかる本	桑原 真人
老前破産	荻原 博子
50歳から始める介護されない体づくり	杉山 ゆみ
人生を変える断捨離	やました ひでこ
丁寧に暮らしている暇はないけれど。	一田 憲子
自然を楽しんで稼ぐ小さな農業	マルクス・ボクナー
さばかないデリ風魚介レシピ	真藤 舞衣子
手づくり絶品レトロパン	山崎 豊
路上のX	桐野 夏生
定年オヤジ改造計画	垣谷 美雨
聴くと聞こえる	谷川 俊太郎
美女は天下の回りもの	林 真理子
タウシュベツ川橋梁	岩崎 量示写真・文
花見べんとう	二宮 由紀子作

☆イベントカレンダー

4月21日(土)13:30~びっくり箱のおはなし会
4月25日(水)10:30~あかちゃん絵本の読み聞かせ
・主催 読み聞かせの会「びっくり箱」
・場所 レ・コード館図書プラザおはなしのへや

☆図書プラザ利用者カードはお持ちですか?

図書プラザはレ・コード館の建物の中にあります新冠の図書室です。町民のみならず近隣町からの利用も多く、赤ちゃんからお年寄りまで、天窗から光が降りそそぐ明るい書架で静かに過ごすことができる憩いの場となっています。

水曜日は夜間開館日で午後8時まで開館し、午後6時からレコードを聴きながらゆったりとした雰囲気でお楽しみいただけ、子どもの読書週間

●問い合わせ先 レ・コード館図書プラザ ☎0146・45・7777

や夏休み、季節の催しなどにあわせた特集も随時開催しております。

図書プラザの本や雑誌、DVD・CDを借りるには利用登録が必要です。新冠町に住所のある方は所定用紙にご記入いただき、その場でカードを発行しています。また、新聞や雑誌など館内での閲覧は登録不要なのでいつでもご利用ください。

読みたい本のリクエスト、お探しの資料がある方はお気軽にカウンター職員へご相談ください。蔵書が無い本や専門書も他館から取り寄せてご用意できる場合がございます。

引越などでお住いや連絡先を変更された場合は、登録内容を変更する必要がありますのでご利用の際にお申し出ください。

広告主募集中!

1月あたりの広告料は、ホームページが10,000円、広報誌は3,000円となっております。詳しくは、担当まで。
●問合せ先:企画課広報統計係
☎0146・47・2498

スライダルフラワー スタンド花 アレンジメント

フラワーつつみ

TEL 0146-47-4878
FAX 0146-47-4879
新冠町字東町19-18
アレンジ教室開催中!

すべての相談の相談料があなたの悩みに

無料になりました。

コタエを出します
相談予約ダイヤル 0146-42-8373
平日10:00~16:00(12:00~13:00を除く)
札幌弁護士会 ひだか弁護士相談センター

《ミルトからの美味しいお知らせ》

昨年より”ほんわかプリン・にいかつぶシュー・クリームわっさん”を各80円(税込)で好評販売中。
ほんわかな気持ちで笑顔になつてもらえる3商品をぜひご賞味ください。

手作り工房ミルト 新冠町字本町110-28
TEL・FAX / 47-2885

25歳以下の方必見!
只今U-25応援企画
日専連カード新規
入会キャンペーン中。

日専連ジェミス
新ひだか支店
☎0146-42-2000

OA・文具・家具・カーテン

株式会社
リバティーはしもと
Liberty Hashimoto

TEL(45)-7021 FAX(45)-7022
新冠町字北星町2-61(役場の目の前)

ひだかひまわり基金法律事務所

弁護士 原 英士(札幌弁護士会所属) / 原 万里子(札幌弁護士会所属)

*借金・クレジットの返済 *多重債務 *交通事故 *離婚
*相続・遺言 *家賃滞納・不動産 *悪徳商法 など

借金・交通事故・相続については、初回相談無料です。☎(0146)43-1206
日高郡新ひだか町静内御幸町3-1-78 2階 (エクリプスホテル静内向かい)

あなたの町のカー&ライフサポーター!!

BRIDGESTONE カーケア&タイヤショップ
SUZUKI ARENA スズキアリーナ新冠
新冠郡新冠町中央町5-28 TEL.(47)-2820

ココロも満タンに
コスモ石油
新和SS(47)-5011 新冠SS(47)-3830

株式会社 伊藤商会

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

『新冠百話』は、平成29年8月に教育委員会が発刊した書籍です。

新冠にまつわる100のお話を通して、ふるさとの歴史や自然、文化をわかりやすいものとして残し、新しい世代に引き継ぐ願いから製作されたものです。編集を担当した郷土資料館が、昭和55年の開館以来地道に行ってきた取り組みの成果がこの『新冠百話』となります。

百話の内容は全4編の構成となっており、文章だけではなく、関連する図表や写真などもあり、くわしく記されています。

次号からは、100話のエピソードから1話ずつわかりやすい形で要約し、紹介していきます。



「新冠百話」

発行日 平成29年8月31日
発行者 新冠町教育委員会
価格 1000円
販売 新冠町郷土資料館

「新冠百話掲載内容」

第1編 「学芸員の郷土史話・コラム」

郷土資料館学芸員が執筆し、広報紙や新聞の連載、地元文芸誌で発表してきた郷土史話を収録しています。大昔の新冠や江戸時代における新冠会所時代、軍馬を育成していた御料牧場、日高管内最大の規模であった戦後開拓などの歴史を知ることができます。

第2編 「古老談の聞き取り調査記録」

郷土資料館では、先人の苦労や知られざるふるさと文化を風化させないため、新冠に住む古老から昔の新冠の様子を聞き取りする調査を継続してきました。

御料牧場前後の出来事のほか、アイヌ文化、戦後開拓のお話が多く収録され、その時の歴史を目の当たりにしてきた方々の生の証言を知ることができます。

第3編 「ふるさとの伝説」

新冠を舞台とした「伝説」の類を収録しています。

アイヌ民族に伝わる不思議な物語を主としています。判官館の源義経伝説についても記されています。

第4編 「ふるさとの知られざるエピソード」

学芸員が関わった地元郷土誌や、郷土文化研究会が記録したふるさとの興味深いエピソードを収録したものです。新冠最大の大水害やゆかりの人物、後世に伝えたい大切な場所などがわかります。

大切な日常のために私たちができること。

「消防団員募集」

あなたの想いで、守れる町がある。
あなたの想いで、救える命がある。
あなたの想いで、深まる絆がある。 消防署新冠支署

火災・救急出動状況 () かつこ内は前年同期

区分	火災件数	救急件数
3月	0件 (2件)	19件 (17件)
30年1~3月	0件 (3件)	79件 (61件)

交通事故発生状況 () かつこ内は前年同期

区分	発生件数	死者	傷者
3月	1件 (0件)	0人 (0人)	2人 (0人)
30年1~3月	2件 (0件)	0人 (0人)	3人 (0人)

人のうごき

(平成30年3月末現在)

人口	5,575人	(前月比 - 15人)
男	2,727人	(前月比 - 6人)
女	2,848人	(前月比 - 9人)
世帯	2,748世帯	(前月比 + 13世帯)